

東海第二発電所に関する意見聴取会

平成24年10月28日

東 海 村 議 会

C

C

開会 午前13時30分

○豊島寛一 委員長 それでは、時間になりましたので、始めさせていただきたいと思います。

まず、意見聴取会を始める前に、本日は大変天気、雨模様の中、また大切な日曜日の午後のひととき、大勢の皆様方にご参加いただきまして、まことにご苦労さまでございます。

それでは、ただいまより開始させていただきますが、その前に、諸注意事項を副委員長のほうから報告をさせていただきたいと思います。皆様方には、注意事項を守っていただきて、きょうの聴取会、ご協力のほどよろしくお願ひしたいと思います。

それでは、武部副委員長のほうから諸注意事項をお願いしたいと思います。

○武部慎一 副委員長 会場での注意事項についてご説明いたします。

- ・この意見聴取会は、この原子力問題調査特別委員会が行うもので、議会事務局と議員により実施しています。なれない点もありますが、ご協力をお願いいたします。
- ・次に、写真撮影などに関する注意事項です。

意見聴取会は、東海在住者、東海勤務者の方々から広く意見をいただき、聞く場であります。マスコミ、個人等によるビデオ撮影、写真撮影、携帯電話、アイフォン、ICレコーダー等による映像、音声の録画などは、この後、委員長の挨拶がありますが、その後からすべて禁止といたします。

また、会場での携帯電話は会の妨げになりますので、マナーモードまたは電源スイッチをお切りください。

- ・また、会の秩序を乱すおそれのある行為をしないこと、ルールが守られない場合には中止することもありますので、ご了解ください。
- ・会場での具合がすぐれない方などございましたら、事務局のほうに連絡をください。
- ・また、会場の奥にあります2階の売店のソファーなどがありますので、そこをご利用ください。
- ・会場の出入りですが、皆様がお入りになりました正面の出入り口がご利用できます。それ以外は防犯のためのセキュリティーがかかっていますので、保安警備員が駆けつける形になりますので、ご注意ください。
- ・また、非常時対応についてですが、前回も会議中に地震がありました。非常時には、この事務局の指示に従い、冷静に1階ホールに階段でおり、屋外へ速やかに退避するよう協力を願いいたします。

・また、意見聴取会終了後は、いすなどの後片づけ等が行われますので、速やかにこの会場からの退出をお願いいたします。

・また、ここは公共施設ですので、駐車場を含む敷地内でのビラの配布等は禁止行為になります。ここはご注意ください。

以上ですが、意見聴取会がスムーズに運びますように、ご協力をお願いいたします。

では、意見聴取会の開催に当たって、委員長からの挨拶をお願いいたします。

○豊島寛一 委員長 それでは、皆様方にご挨拶を申し上げます。

本委員会では、平成24年3月に東海第二発電所の廃炉、再稼働中止などの請願3件と、安全性向上に関する請願1件の計4件の請願の付託を受け、これまでに7回にわたり審議を進めてまいりました。

これまでも東海村民の関係者の方々からご意見を賜ってまいりましたが、さらに広範囲に東海村に在住する方々、そして村で働いている多くの職業の方々から、個人として率直なご意見を聞かせていただく場として、意見聴取会を設けることにいたしました。

前回10月25日の木曜日、夜間でございましたけれども、6時半からでございました。受付の記録からですけれども、297名の参加をいただきました。主婦の方々、原子力関係の方々など、37名の方から貴重なご意見をいただいております。

本日、10月28日日曜日でございますが、さらに多くの職業の方々からご意見をいただきたいと考えているところでございます。

意見聴取会におきましては、中立、公正を期して運営してまいりたいと考えております。いただいたご意見は、今後の請願審査の中で参考にしてまいりますので、ご理解とご協力のほど、よろしくお願ひ申し上げます。

続いて、武部副委員長のほうからございます。

○武部慎一 副委員長 では、恐れ入りますが、マスコミ関係者の方々、撮影機器などの電源のスイッチをお切りください。

では、マイク担当がこれから移動しますので、しばらくお待ちいただければと思います。

○ すみません。ちょっと聴取会に入る前に意見を述べたいんですけども、お願ひします。会の進め方について提案があります。

○豊島寛一 委員長 会の進め方ですか。

○ はい。いいですか。

○豊島寛一 委員長 はい。

○ 私は、25日に参加して意見を述べさせていただきましたので、今日は意見は述べることはしません。ただ、この前参加して、異様な雰囲気を感じたので、そのことだけ述べてみたいと思うんですけれども、見ただけでどこかの企業の従業員というふうな方がたくさん見えておりまして、発言を聞きますと、推進論ばかりで、服装や持ち物を見ますと、どこかの企業の従業員かなということが一目でわかりました。

ところが、帰って遅くになって私のところに電話がありまして、いわゆる内部告発なんですけれども、企業のやらせだということを言ってきた人がおります。この人の名前は言えません、私は。この人の安全を保障するために。4名でやらされているという話をしていました。それで、そこの企業の管理職が玄関前で立っていたというところがあるんですけども、確かに参加しているかどうかというのを見守っていたと。そして、始まったら中に入ってきて、どういう発言をしているか、企業の気になるような発言をしているかどうかというのをチェックしていたという話があります。

そういうことは、話の内容も判こで押したように皆同じ内容なんですね。

○ 豊島寛一 委員長 わかりました。参考にさせていただきますけれども、前回と今回、フリーという立場をとっておりますので、中傷、誹謗はちょっとご遠慮いただきたいと思います。

○ いや、中傷、誹謗じゃなくて、実際あったものですから。

○ 豊島寛一 委員長 意思はわかります。時間が限られていますので、進めさせていただきたいと思いますが、皆さんよろしいでしょうか。

[「異議なし」と呼ぶ者あり]

○ もうちょっと聞いたら。

○ 豊島寛一 委員長 趣旨はわかりました。

○ どういうことがわかったの。

○ 豊島寛一 委員長 企業関係の方が多いということですね。

○ 企業関係の方が多くて、外で見張っていて、やらせでやっていると。聴取会がゆがめられているということなんだろうと思う。

○ 豊島寛一 委員長 ご意見はわかりましたので、限られた時間でございますので、ご了承いただきたいと思います。

それでは、私のほうから今までの経緯を簡単に説明させていただきたいと思います。

もう既に皆さんご承知と思いますので、割愛するところもございます。

それでは、今までに7回の原子力問題調査特別委員会で審査を続けてまいっているところ

でございます。最初に、請願者から趣旨説明を受けました。骨子などのほうは、廃炉、再稼働中止等の3件と、安全性向上に関する請願を1件の4名の方に伺っております。

その後は、質疑を委員会で行っているところでございます。

次、3回目には、原子力関連の事業所さんでございます原子力燃料工業さん、原子力機構さん、日本原電さんの説明を受けているところでございます。

次にもう4回目は、再度審議を行っているところでございますが、慎重審議の結果、審議継続ということに結論に至っております。

続きまして、傍聴者のほうからご意見を聞く場を設けていただきたいという申し入れがございましたので、その後原特委員のほうで委員会のほうへワーキングチームを設立して、現在に至っているところでございます。

中身については、大変皆様方、ご承知のとおりだと思います。

続きまして、請願についての参考でございましたが、こちらも、ただいま言った4件でございます。再稼働を認めず、廃炉を求める意見書ということでございます。もう1件は再稼働中止の意見書でございます。もう1件のほうは廃炉を求める意見書ということで、4件目は、原子力施設の安全施設と安全性向上に関する意見書という4件の付託を受けているところでございます。

続きまして、意見聴取会における発言に当たっての注意事項を副委員長のほうからお願ひいたします。

○武部慎一 副委員長 意見、発言に当たっての注意事項をお伝えします。

発言の時間ですが、前回と一緒に1人3分を予定しています。2分30秒で予告掲示板とベルを1鈴鳴らします。発言のまとめをお願いいたします。3分たちましたら、ベルを2鈴鳴らします。そして、委員長から、まとめてくださいとの指示を行います。速やかに次に引き継いでいただければと思います。

あと、時間の不足など、後方に意見記入用紙を設けてあります。これについて、記入いたしましたら、所定の回収場所へ投函ください。また、発言できなかった方は、ホームページ等の意見募集を10月31日まで受け付けていますので、ご記入いただければと思います。また、ご意見記入用紙をお持ち帰り、ファックス等で事務局へ送付いただいても結構です。ご協力をお願ひいたします。

そして、発言者の人数ですが、これは会場のこの借用時間の許す限り伺いたいと思っています。発言に当たっては、制限時間がありますので、時間を守って発言をお願いいたします。

前回、10月25日に発言された方は、発言をできるだけ控えるようにお願ひいたします。多くの方のご意見を今回伺いたいと考えています。

また、発言の場合には、お名前と居住区、白方住、東海住など、職業等東海勤務者や主婦、原子力関係者、農業関連、商業関連、サービス業などをお話しitただければと思います。

そして、特定の個人や団体を中傷、誹謗するようなもの、営利を目的としているもの、一方的な内容のものの発言については発言を中止していただく場合があります。

また、発言の進め方ですが、発言時のやじや会場でのお話などはお控えください。場合によつては、退場していただく場合もございます。また、拍手などもお控えください。

ご発言について、ここでは質疑応答する場ではありませんので、個人的質問などについてお控えください。それぞれ個別に対応していただければと思います。

また、進行時間のロスを少なくするため、挙手をしていただいた方から、最初に数名を決めて進行していきたいと考えています。前回は、女性の方の発言が大体4分の1程度でした。ということもあって、積極的な発言を期待しています。

また、建設や運輸、農業、商業、サービス業といった方の職業の方々のご意見もかなり少なかつたので、できればご意見をお聞かせいただければと思います。時間の許す限りご意見を伺いたいと思いますので、ご協力のほど、よろしくお願ひいたします。

以上です。

○豊島寛一 委員長 それでは、早速意見聴取会を始めさせていただきたいと思います。

それでは、ご意見のある方は挙手願います。

じゃ、こちらのコーナーで3名の方。

○カワサキ 白方に住んでいますカワサキと申します。

東海第二原発を廃炉にして、東海村を安全でクリーンな村にしたい。

東海第二原発を再稼働させれば、使用済み核燃料の中に毎日3キログラムもの死の灰が発生、1年で広島型原爆の1,000発分が蓄積します。全国の原発が動けば、この50倍余の死の灰が発生し、日本列島は原発の過酷事故と使用済み核燃料の危機に日常的にさらされます。脱原発の後、豊富な純国産の自然エネルギーによって安い電気料が実現し、雇用はふえ、安全でクリーンな新しい日本が生まれます。

電気料が2倍になると政府は脅かしますけれども、地球環境産業技術研究機構では、試算して、現在月1万円の家庭の電気料金が、2030年に原発を全く動かさなければ2万円、全

部動かした場合、1万8,000円というもので、電気料金は2,000円も下がっています。

もう一つの国立環境研究所の試算では、2030年の料金は、原発あり、なしで全く同じ1万4,000円です。いずれの試算も、原発ある、なしで電気料金はほとんど変わりなく、政府の言い分はごまかしています。

原発は、電気料金が安い、これもまやかしです。原発こそ、本質的に高コストであることは、今回の東電福島原発事故で、9月から電気料金が上がったことでも明らかです。一たん大事故が起きれば、その賠償や除染、事故を起こした原発の管理などに莫大な費用、使用済み核燃料の長期間保管など、大きなコストが電気料金に転嫁されます。

環境省などは、日本には利用可能な自然エネルギーは20億キロワット以上あり、原発の54基の約40倍と公表しました。自然エネルギー発電は、大規模な普及と開発が進めば、大幅にコスト削減が可能です。再生可能エネルギーによる発電は、地域密着型の新産業であり、地域経済への波及効果も大きい。エネルギーの地産地消、地域や自然環境の実情に合った小型の発電装置の開発、製造、管理などは中小企業への仕事をふやすことになり、日本の本来の物づくりの力が生かされます。雇用も原発よりはるかに大きな可能性を持っています。

ドイツでは、原発関連の雇用は3万人に対して、再生可能エネルギー関係の雇用は38万人になっております。JCO臨界事故、そして核燃料火災爆発事故を起こした東海村議会は、一刻も早く廃炉を決意し、国に対してエネルギー政策を根本から変える提案をする使命があるのです。

よろしくお願いします。

○豊島寛一 委員長 ありがとうございました。

次の方。

○スギヤマ 村松在住の者です。原子力関係の事業に携わっております。

私の個人的な意見を述べさせていただきます。

東海第二発電所の再稼働は賛成です。廃炉は反対です。

理由を述べます。

まず、東海村の村民憲章をいま一度振り返ってみてください。そこに書かれている内容、それと原子力の発祥の地の東海村先人の皆さんのがこれまで培ってきた歴史、歩み、まずそれをいま一度振り返ってみるということが大事だと思います。

続きまして、あとは当たり前のことになるかもしれませんけれども、日本はエネルギー資源に乏しいということはもう自明です。ここで日本がエネルギーを放棄するということは、

世界に対して、日本は敗北者であるというようなことを宣伝するようなものだと私は考えます。

以上の理由から、原子力技術の今までの技術の飛散、飛散というか広がってなくなってしまうということではなく、今までも含めて廃炉の問題、福島の問題もありますけれども、それらの技術開発のためにも、このような貴重な人材を確保して開発を進めていくことが必要と考えております。

以上です。

○豊島寛一 委員長 申しわけございませんけれども、お名前を。

○スギヤマ 村松在住のスギヤマと言います。

○豊島寛一 委員長 ありがとうございました。

○ショウジ ショウジと申します。私は、東海第二発電所に勤務している関係です。個人として意見を述べさせていただきたいと思いまして、挙手いたしました。

私は、東海第二発電所が運転を開始しました昭和53年に入社しまして、東海村の住民となり、途中転勤もありましたけれども、現在また発電所で放射線管理関係の業務に携わっております。

入社してから三十有余年たちましたけれども、私はまだ現役です。見た目は年相応に変化をしてきておりますけれども、健康診断を受けながら勤務を続けております。

一方、発電所ですけれども、毎年定期検査をいたしまして、予防汚染として劣化傾向にあるものは壊れる前に取りかえるとか、そういう定期的な診断とか定期的な保守を行ってきてます。津波とか電源喪失、昨今の問題に対しても、従来の安全設備に加えてさらなる対策を施し、施そうとしている最中でございます。これらのことが原子力安全委員会により審査され、各分野の専門家により安全確保の診断がまさにされようとしているところだと思っております。

こうした中にあって、専門家の判断を待たず、福島と同じ型だからとか、古いからとか、あと何となく心配だというような不安から廃炉にしようというような考えには反対を申し上げます。

私は、科学的な診断とか、廃炉後の影響、これは経済の問題だけではなくて、資源の少ない日本のエネルギーの問題、あるいは化石燃料を使うことによる環境問題、これは個人の問題、レベルだけではなくて、日本としてどうなのかというような総合的な見地から、検討、判断されるべきものだと思います。

私は、私たち事業者について、決して地域の皆さんや個人をないがしろにしようと、そういう考えは全く持ってございません。常に安全を最優先に、さらに安全を高める取り組みを進めております。放射能をまき散らすような事故は決して起こしてはならないという思いを、働く者として強く持っております。時間の都合で、現在担当している放射線とか放射能のこと、これは自然放射線のことですとか、人体への影響ですとか、廃棄物の管理とか、そういったこともお話し、今はできませんけれども、機会あるごとにご説明をさせていただき、知っていたらしくことに周辺の方々、住民の方々の不安の種を少しでも減らせるように私ども努力していきたいと思います。

以上です。

○豊島寛一 委員長 恐れ入ります。お名前をもう一度。

○ショウジ ショウジです。

○豊島寛一 委員長 ショウジさん。

○ショウジ はい。

○豊島寛一 委員長 ありがとうございました。

次、一番前の女性の方。

○アベ 私、白方のほうに住んでおりますアベと申します。

原発の再稼働という形になりますと、もうこれは絶対に廃炉にしていただきたいと思っております。

もう原子力のこの原発というものができて、もう古くなっていますものね。いつ事故が起きても不思議ではありません。私も45年前にここに住みましたときに、もうそれをずっと感じておりますし、ついこの間の福島のときにやられたなというふうに感じたことが実感でございます。

事故が起きてからでは、私たち年寄りにとってはもうどうしていいかわかりません。どういうふうにして逃げていったらしいかわからないという人たちが今の私たちの考え方でございます。すぐに死ぬということは原発のほうでどういうふうに考えているんでしょうかと思いますね、年寄りに対して。

そういうことを考えておりますと、再稼働はすぐにやめさせていただきたいと思っております。寿命があつてこの再稼働をした場合には、寿命というものを考えますと、廃炉になることを考えております。

テレビで見ておりますと、福島原発の責任者はだれ一人反省をするというようなこともな

いように見えてまいります。死んだ人はいないんだから問題はないというように言いますが、それは非人間的な行為であって、変な考えだなというふうに思っております。こうした人たちの福島の被曝者に対して、何も考えていないんだろうかというふうにも、それがやっぱり蒸し返されてしまいますね。経済の雇用の話をする人には、私たちは事故で福島の人たちのようになるかもしれないという気持ちが感じられてなりません。自分が、家族が犠牲になるかもしれない、そういう見方もあります。戦前、男の人たちが縁台将棋をしたりして、そのときのことも何か今の原発のこの話とよく似ているようになって考えられます。

もう何か時間がないようですので、今、原発のことに対しては、本当にいても立ってもいられないような気持ちでございます。年寄りは……ごめんなさい、時間がなくなりましたので。

○豊島寛一 委員長 まとめていただければ。

○アベ 再稼働に対しては、絶対に反対です。これだけは本当に言いたいと思います。

以上でございます。

○豊島寛一 委員長 ありがとうございました。

次の方。

○フジイ 東海村舟石川のフジイと申します。職業はプログラマーです。

私の意見。

日本のように地震列島で国土も狭く、住宅も密集している国で原発を持ったのは国の失策だと考えます。原子力関係には、毎年4,000億円以上の巨額の予算が投じられます。その3割以上が地元の反対を黙らすためにばらまかれています。文部科学省は、全然役に立たないもんじゅは今後10年間でさらに3,000億円以上かかると試算しました。六ヶ所村の再処理施設が稼働すると、通常運転で猛毒のトリチウムを出し続けます。放射性廃棄物の最終処分場も決まらないのに、これからもどんどんふやしていくのでしょうか。

福島の事故はいまだに収束しているとは言えず、一度自然界に放出された放射性物質は容易には取り除くことができません。こんなことが本当によいと思うのでしょうか。はつきり言って、今がよければそれでよいという自分勝手な考え方しかありません。未来の子供たちに問題を押しつけているだけです。脱原発の流れは、今やグローバルスタンダードです。

今、私たちが原子力の問題性を見て見ないふりをしても、今後間違いなく事業は縮小していくでしょう。早目にかじを切ったほうが間違いなく将来の日本の利益につながると思いまます。新しいエネルギー革命は、新たな産業や雇用を生み出します。私は、有能な指導者のも

と、国策で実行すれば雇用も守りつつエネルギー革命できると思います。逆に、経済を今よりよくすることだって可能だと思います。国民一人ひとりがどれだけ必死になれるかではないでしょうか。

例えば今の風力発電の装置だって、大体が輸入物です。今なら風力でも地熱でも波力でも水力でも、まだまだ日本のメーカーが入り込む余地があります。原子力関係者は、最高レベルの知識者集団です。この知識を日本再生に生かすべきではないでしょうか。原研は原子力の研究から実在エネルギーの研究にシフトしていくべきです。世界に再生可能エネルギーの発電システムのインフラ輸出を行いましょう。他国にとられた太陽光パネル、蓄電バッテリーのシェアを取り返しましょう。大震災で傷ついた日本を明るい未来で満たしましょう。

最後に、それでも再稼働しようとする人たちへ。

事故が起きても何の責任もとれないくせに、無責任に再稼働をしないでください。

再稼働に賛成もしくは反対の意見を表明しない方へ。

もしものとき、あなたたちに東電を非難する権利はありません。また、補償金がどうたら言う権利もありません。なぜなら、そういうリスクを理解していてなお脱原発を訴えなかったのだから。

東海第二再稼働反対。先ほどから意見を聞いていますと、対策を打っていると言うんですが、安全と言えますか。何かあったときに責任とれますか。

以上。

○豊島寛一 委員長 ありがとうございます。

○モリサワ 舟石川在住、年金生活のモリサワです。

東海第二発電所の廃炉に関する請願書に対し、私は否決することを求めます。

請願書を提出した方や、その意見にご賛同の方々、賛成の議員の先生方にお伺いします。

今回の福島の事故を通して、安全確保に対する対策を求めるのはわかります。しかし、廃炉を求めてどうするのですか。そして、東海二号の廃炉、その他の原子力発電所はオーケーの方はない。すべての原子力発電所の廃炉を求めているものと考え、意見を述べます。

3点申し上げます。

1点目は、東海村から原子力をなくして何で村おこしをしようとお考えでしょうか。村おこしの対策案もなしに、ただ廃炉、廃炉だけでは無責任ではないでしょうか。東海村は、日本での原子力発祥の地として、また世界に行っても、ジャパン東海村でわかつてもらえる村として、私も長く誇りを持って住んできました。東海村には、原子力という目玉を持ってい

ます。それを生かすことが最良と考えます。原子力発電を不要と判断すれば、原子力研究、関連会社、技術、人材も不要になり、一気に東海村は衰退してしまうでしょう。それでいいんですか。

2点目は、日本国を破産させようとお考えですか。日本は、資源や燃料は何もありません。それらを輸入し、最新の技術で製品をつくり、輸出して成り立っている技術立国です。それを支えている一つが、安定した電圧の豊富で安価な電力です。しかも、日本は1,000兆円もの借金のある世界一の借金大国です。しかし、なぜ世界が、ギリシャのように日本は破産国だと騒がないのでしょうか。それは、世界が日本を世界の技術立国として認め、信用しているからです。

そんな中で、原子力発電を一気に廃止したらどうなるか。電気代は一気に3倍、4倍にはね上がり、中小企業は成り立たなくなり、大企業は海外へ移転してしまい、日本では技術のない悲惨な国になってしまいます。そうなれば、全世界から信用できない国と烙印を押され、一気に破産国に成り下がり、国として成り立たなくなるでしょう。

原子力発電をやめたドイツで、今もう既に電気代がじわじわと上がって、企業が悲鳴を上げているのです。日本もその後を行くのですか。

3点目は、地球環境の問題です。

日本では、ゲリラ豪雨や竜巻の被害がメジロ押しです。地球温暖化が進んでいるのです。その中で原子力発電をすべて廃止、火力発電でカバーし続けると、さらに加速度的に温暖化が進みます。現在ですら毎日北極、南極の氷がどんどん解けています。

さらに、温暖化が加速されて、3・11の津波ではないですが、海の水位がどんどん上がり、日本でも平野部分が大きく海になり、海に沈んで、沿岸部では住めなくなります。

さらに、北極、南極の氷がなくなると、皆さん御存じの海流がなくなります。海流がなくなければ、すべての地球上の生物の生態系が崩れ、地球上に我々は住めなくなります。言われています。それでよいのでしょうか。よいわけではありません。豊かな東海村をつぶし、未來の子供たちに希望を与えなくていいんですか。

以上、3点申し上げました。廃炉請願書をぜひ否決していただきたく、よろしくお願ひします。

○豊島寛一 委員長 ありがとうございます。

じゃ、後ろ。ヨシダさんのコーナーの。白いワイシャツか。

○タカハシ 原子力関係の事業に勤めています日立市在住のタカハシと申します。

私は、20年前に東京から就職で東海村のほうにきました。東海村に来て、2003年に結婚して日立市のほうに引っ越しましたが、一番最初に東海村に来て驚いたこと、村という名前とはそぐわない非常に立派な村であるということを感じました。就職をして仕事をして、そういうことが起き得る環境にあるんだなということをよくわかりました。

今まで出てきた意見の中で、私は東海第二発電所の再稼働に賛成の立場で発言をさせていただきます。

まず1点、なぜ国策として、原子力を国が今まで先導してきたかということについてでございます。

火力発電に使われる重油、それからガス関係ですが、すべて、すべてではないですが、リスク分散のためにさまざまな国から輸入をしております。主にアラブ諸国がメインとなりますが、そちらから輸入する際に、どのような苦労をして日本に船を運んでいるのか。大型の船を、海賊がいるようなところも通り、かつ戦争をやっているところも通るときに、日米タッグになってさまざまな形でそのタンカーを守りながら、毎日のように何千トン級の船が日本に入り出しているわけでございます。かなりのリスクを抱えておったわけでございます。

ここを考えたときに、国策として、資源のない国としてどうしていくのかという論議がなされたかと思います。私個人としては、国策は間違ってはいなかつたというふうに思っております。

それから、安全についてでございます。

私も、原子力関係の事業に従事しておる者でございます。安全に関しては今まで以上に、過剰なまでに安全対策を実施しておるところでございます。中には、さまざまなお話をされる方がいらっしゃいますが、何が原因で福島がああなったのかということをよくもう一度考えてみなければいけないと思います。地震なのか津波なのか、その結果、東海第二発電所がどういう形で冷温停止になったのか、そちらをよく考えていただいて、安全対策というものを見ていただければと思います。

最後に、ドイツをはかりにかける方がよくいらっしゃいます。ドイツはフランス、原子力をやっているフランスから電力を輸入している国でございます。言い方は悪いですが、他人のふんどしで相撲をとるような国でございますので、私はドイツをまねするというようなことはちょっとといかがかなと、冷静に考えればわかっていただけのではないかなというふうに思っております。

以上3点、雑駁ではございますが、私の個人の意見を申し上げさせていただきました。

○豊島寛一 委員長 ありがとうございました。

○サイトウ 村松在住のサイトウといいます。主婦です。

5年ほど前までは東海村の職員でした。公立の保育所に勤めておりました。

私は、私の実家は南相馬市なんです。だから、皆さんよりはもっともっと痛みを感じている一人でございます。やっと実家も除染が始まったところです。でも、やっぱり家族はばらばら、地域はもうコミュニティーもばらばらという形で、安全のために孫たちと会えない、孫たちは宮城に引っ越したという、そういう感じ。おじの家は浪江町ですから、二本松に今引っ越しております。そういう感じで、日々他人事ではありません。私は、原発はやめてほしいと思います。

20キロ圏内の小高地区のところに1人の頑固おじいさんがおりまして、その人が、原発はもう一つつくるという案があったんですけども、反対して、そしてつくらなくなつた経緯があります。あれがもしできていたら、私の家なんかももうだめだったでしょうね。変なじいさんというか、形で言われてきましたけれども、そういう先人がいたからこそ守られた部分もあったかなという気持ちは今しています。

それから、私は、県の代表としてスウェーデンとかイギリスの海外研修にも行ってまいりましたけれども、やはりすぐれたモデルがありますから、再生可能エネルギーのそれを利用した東海村から廃炉の研究を世界に先駆けてやるべきだというふうに考えています。そして、そういうところに投資の話が来たらいいんじゃないかなというふうに思っています。やっぱり過去は過去、過去の栄光、それからこれから私がずっと子供たちを守る立場で仕事をしてきましたので、やっぱり未来に向かって沖縄の言葉じゃないですけれども、「イノチルータカラ」、命ほど大切なものはないというふうにすごく思っています。太陽と水と土と子供たちが、触ってだめよと言われるような原発の事故といったら、普通の事故とは考えられないぐらいの被害の大きさですよね。健全な未来をつくっていける大人でありたいと思っています。この辺で子供たちががっかりする、私たちは過去の人になりますけれども、未来に向かってやっぱり伸びていく子供たちに恥ずかしい選択をしない、そういう東海村の住人になりたいと思っています。よろしくお願ひいたします。

あと、女は基本的に10ヶ月お腹に子供を宿して、そして産み育て、命をかけて育てるんですよね。だから、やっぱり男性よりは動物的勘として嫌だと思っています。

○豊島寛一 委員長 ありがとうございました。

じゃ、男性、眼鏡かけている人。

○ヤマモト ヤマモトと申します。東海村の東海第二に勤務している者です。

私が申したいことは、1点だけになります。

私が申したいのは、温暖化、先ほどありましたけれども、温暖化の問題についてです。

私が今の会社に入ることを決意したのは、思いますのは、二、三十年ぐらい前に学生だったころですね、今世の中では温暖化というものが進んでいると。そのときは原子力は本当にもう非常になくて、東海第一ぐらいだったと思います。

ところが、その当時は石油、石炭、ガス、そういったものにほとんど依存していました。先ほど、放射能が出しつ放しという話がありましたけれども、炭酸ガスも負けず劣らず出しつ放しなわけですよね。大気中に放置されると、もう出しつ放しなわけです。全くなくなりません。なくなる、森があるとなくなったりするんですけれども、そういうものがないとそのままの状態です。

それで、私はやはりこれからは放出量が違う、同じエネルギーを使うんであれば、炭酸ガスの放出量がけた違いに小さい原子力、これを置いて日本のエネルギー、あるいは世界のエネルギーを当面支えるものはないというふうに思いまして思考しております。その考えは今も変わっておりません。

昨今、著しい気象条件、竜巻ですか、あるいは梅雨時になると昔はしとしと降ったと思いますけれども、今はもう熱帯地域のような降り方ですね。もう土石流で九州ですか紀伊半島とか、あちらのほうで非常にもうひどい被害に遭って、日本でもそういう被害が出てると思います。

それから、南の小さな島では、自分の国土が失われてしまう、そういう状況になっているんですよね。本当にもう逃げるところもないんだと思います。それから、北極の氷も解けています。まだ海の氷ですから、そんなに水位は影響ないかもしれません、南極の永久、地面の上の氷が解け出すと、もう海面がどんどん上がってくる。そういうことを一刻も早く進展を緩和するために原子力をとめておくということは非常にデメリットばかりです。

そういうことで、私は今廃炉云々ということではなくて、まず安全を確保されたものは運転をして、それで炭酸ガスの排出量緩和を進めるべきだというふうに思っております。

以上です。どうもありがとうございました。

○豊島寛一 委員長 ありがとうございます。

この列の方。

後ろの方なので申しわけございません。

○サトウ 須和間に住んでおります無職のサトウと申します。

いろいろな意見が出ておりまして、推進派の方のお話を聞きますと、ハイリスク、ハイリターンじゃないんですけれども、ハイリターンの強調ばかりしているような気がします。ハイリスクのほうは全然もう影が薄くなっちゃっている。僕自身の意見としては、東海第二発電所の再稼働は絶対反対、廃炉にすべきだと思います。

それは、一番、福島第一原発の事故を見て思ったのは、あの事態を見てから目が覚めたんですけども、クライシスマネジメントという危機管理という考え方からいくならば、今の安全対策というのは全然あることが欠けているんです。事故が起きたならば、放射性物質が放出され、大気、海をみんな汚染していきますけれども、クライシスマネジメントというのは、事故が起きたらば、最小限に被害箇所を拡大させない、一ヵ所にまとめる、こういった面では、今の原発はオーファーテクノロジーだと思います。人類にその技術はないんです。放射能を抑止するというか防止するという技術力が全然ないんです。だから、一たん事故が起きたならば、ここの30キロ圏内の人々は100万人いるらしいんですけども、その人たちのどこにもみんな逃げていかなくちゃいけない。その人たちの第二の生活を保障してくれるのにはだれもいないんです。

もう一つは、使用済み核燃料の保管場所、ほか、これの問題、それから福島第一原発で起った事故で、今除染作業をしていますけれども、福島の山林は県内全域の7割を占めていると。今その除染作業は、住民が暮らしている周囲の20メートル以内の除染しかやらない。じゃ、山林に降った放射性物質はどこに行ってしまうんですか。みんな農作業や海やいろいろなところに雨水とともに流されて川に沿って流されていくわけです。

時間がありませんので、最後に僕の一言言いたいんですけども、45年前に原子力発電に関する安全に問題があると言いまして、湯川秀樹博士が、多くの人々の命と引きかえに経済や産業、そして生活の利便性を優先してはいけない、これは万人の声だと思います。

○豊島寛一 委員長 まとめてください。

○サトウ 万人の声というか、もう絶対こういうことで第二発電所の再稼働は反対です。

以上です。

○豊島寛一 委員長 ありがとうございます。

ここで、立っている方は、前があいていますので前のお席のほうにお進みください。

女性の方、ひとつお願いできますかね。

それと、あと農業関係の方、商業関係の方がまだ意見が出ていませんので、ひとつ関係者

はお願いしたいと思います。

○サトウ 村松北に住むサトウと申します。

福島原発事故から1年7ヶ月、いまだに除染も進まず、事故によりふるさとを追われ、帰りたくても帰れない避難を強いられている人が15万余りとも言われる福島の現状は、老朽化原発を抱える東海村に住む私にとっては、人ごとではないとの思いを強くしています。

安全対策は万全だとよく言われますが、もう私は原子力発電、安全ということは絶対あり得ないと、もう信じていません。福島原発の事故では、原発の危険性と恐さを多くの人が戦慄の思いで体感させられました。原発による放射性物質の拡散と汚染は、田畠はもちろん海や山、河川を汚染し続けています。子供たちが健康に育つ環境も奪われてしまいました。将来ある子供たちを守ることは、私たち大人の務めではないでしょうか。子供を持つ母親、妊娠婦にははかり知れない不安を与え、農畜産、漁業、商業など、あらゆる分野に及ぼした精神的、経済的被害は甚大なものがありました。

このような状況を踏まえ、次の理由から東海第二原発の再稼働に反対し、廃炉を求めます。

- 1、福島原発事故の原因や詳細が明らかにされていないこと。
- 2、東海第二原発は、運転開始から34年目に入った老朽化した原発であること。
- 3、東海原発周辺には、断層といいますか海溝型プレートとかさまざまなものがあり、そういう大地震が起こる可能性も否定できないことです。

4、30キロ圏内には100万人余りの住民が居住しており、人口密度が高いこと。10月24日には、放射性物質の拡散予測が出ました。100ミリシーベルトを超える地点として、東海村は全域がもちろん入ります。14市町村、93万1,530人には退散なんていう、到底避難は無理だと思います。

5つ目は、トイレなきマンションと言われている使用済み核燃料の死の灰と言われ、処分方法が確立されていないことです。100年、200年で消失するものではなく、億単位という負の遺産を次世代へと蓄積し続けていいってよいのでしょうか。未来を考えてください。

以上の5つの理由から、東海第二原発の再稼働に反対、廃炉を求めます。自然に恵まれた東海村がなくなることがないよう、安心して住み続けられる村として原発に頼らない村づくりを今すぐにでも村議会、村民が一体となって真剣に考え、取り組むときではないでしょうか。

以上のことから、絶対に原発再稼働は許せない、廃炉を求める意見といたします。

○豊島寛一 委員長 ありがとうございます。

一番前の方。

○テラカド 舟石川のテラカドです。

自分は、真ん中の左といえば左なんですが、どちらかといえば稼働には反対です。

というは、13年前のJCO臨界事故のときの我々は農産物関係の加工業をしております。やはりあの事故の近隣住民のいろいろな意味での対応に追われて、自分の補償請求は放り投げて一生懸命動いたもので、ほとんど補償らしき補償は受けておりません。自分の親族や何かの、それから汚染のあった方は、浪江なんかに多数おられます。

その東電による補償状況を見ていると、余剰資金というかゆとりあるお金がある事業者以外は、倒産もしくは廃業寸前の状態になっております。それに対する東電の補償に対する対応というものは、全く地元では誠実さに欠けているというふうに言われています。

もう一つ、廃炉に賛成ということは、六ヶ所村のプルサーマル、ほとんど4年も5年も試験運転の段階で頓挫しております。使用済み燃料のその他は、8割を超えるくらいあそこにてまり続けております。

ですから、東海第二に2,000あるとも幾らあるとも言われておりますが、それは恐らく東海村にほとんど永久的に置かれるでしょう。これから稼働を続けていけば、それがどんどんふえていきます。

日本は、本当に地震大国、どこへ行っても活断層の巣です。そういう中で、10万年もたつて、例えば、いろいろな生成物だったら2万4,000年、6,000年で半分、それを10万年たつてもまだ無害とは言えないと学者さんなんかはおっしゃっておりますね。そうしたら、それを我々が10万年先の子孫にどうやって安全を担保できるのかお伺いしたい。

あと、議員さんに、ちょっと耳が痛いと思いますが、前回の村会議員選挙、旗色を鮮明にされた方は自分の見たところ7名いないんです。それで選挙が終わって、受かつたら議会でよくも悪くも村上達也を攻撃する。もうちょっと議員として選挙に立つからには、受かれば千両なんですから、ちゃんと選挙公報には、責任を持った形で意見を述べてほしい。それじゃなければ、我々選挙民を愚弄しているとしか言いようがございません。

○豊島寛一 委員長 ありがとうございます。

一番、後方の方。

次に、農業関係の方いらっしゃいますかね。

じゃ、女性の方。次の次にお願いしますね。女性、次。

じゃ、一番後方の方。

前の席あいていますので。

○エンドウ 舟石川のエンドウです。

私は、廃止という、第二原発は廃止という考え方で意見を述べさせていただきます。

1番目に、沖縄には原発はありません。だけれども、電気料金は何も高くありません。そういうことで、原発が安いというのは全く見当違い。さらに、これから待っているのは廃棄物処理とかいろいろコストアップは幾らでも要因がありますけれども、そういうことは計算しない。要するに原発が高くならないという計算をしているだけで、全く根拠がない。

推進派が再開、再開と言うのは、何か総括原価方式による、基本的には総括原価方式によるうまい汁を吸うためであります。この総括原価方式をやめて、さらにそれでも原発をやりたいというんだつたらもう少し話がわかります。あと、皆さん推進派の方は、何らかの形で利益、利害関係のある方で、私は全く第三者で関係ありません。そういう立場にあります。

それから、3番目、原発は運転開始後50年ぐらいたっても、まだトイレもありません。トイレをつくる見通しもありません。日本じゅうを全部うんちだらけにしちゃうんでしょうか。

それから、4番目、東海第二は全盛期の遺跡的な古い技術、設備は新しいかもしけれども、技術は非常に古い技術であります。それに相変わらず予算を立てて、原子力村集団が群がって浪費している、これが実態であります。

5番目、先ほどから原発をやらないと地球温暖化だということはあります。言っておられます、今原発、脱原発派は、再生可能エネルギー、これは全く炭酸ガスを発生しません。もちろん放射能は発生しません。そういうことで、風力とか太陽電池とかそういうのは全く公害に関係、無関係であります。そういうことを推進しているんであって、それは石油が一時必要かもしれませんけれども、向かう方向はそういう再生可能エネルギー。エネルギーが無尽蔵、幾ら使っても使い切れないほどのエネルギーがあるわけです。

以上です。

○豊島寛一 委員長 ありがとうございます。

じゃ、女性の方、眼鏡かけています。

○オオモリ 東海村東海に住んでおりますオオモリトミコと申します。

今、委員長さんのほうから農業の立場からと言ったときに、私はいろいろなことを考えて、それもあるだろうと思って手を挙げました。

と申しますのも、私も、このいわゆる原子力研究所が誘致された次の年に東海村に就職いたしました。保健婦として約30年あの村を歩き回りまして、その当時は米麦を中心とした本

本当に農村地帯でした。そういう中でずっと働いてまいりました。女性として母親として、命を守り、すべてのものは平和を守りますと同じように、未来の子供たちの命を守るために、私は第二発電所再稼働について強く反対の立場をとっています。

そういうわけで、今委員長さんのほうから、農業関係の方というようなあれもありましたので、農業と漁業もあれかなと思って、私は、嫁いできたところが日立でしたけれども、日立から東海村に17年ずっと通っていましたんですが、生まれたところは今は神栖市に合併しました波崎町でございます。銚子、波崎として県内で有数の漁業ですね、水産業、水産加工を中心としたところなんですが、もう今度のこの福島の事故で、そして地震、津波にすぐ、それを追い打ちをかけるように福島の原発の事故で放射能問題がずっともうきましたね。地震と津波だけならと、そういうこと自体ちょっと失礼ですけれども、どうにかいいろいろみんなあれして別な復興の仕方があったと思います。だけれども、放射能が後打うちかけて、高萩にいたって何だって、瓦れきをそういう関係で拒否しているわけでしょう。

私は、せっかく北茨城、波崎町、その他の水産の現場が魚をとったときに、放射能が含まれているということを聞きまして、もうすごく涙が出るほど悔しかったんですよ。

そういうことも含めて、再稼働には絶対反対でございます。

以上です。

○豊島寛一 委員長 ありがとうございました。

商業関係の方はいらっしゃいますか。商業に携わっている方。特にない。

じゃ、今お手を挙げた方。

○サトウ 農業関係。

○豊島寛一 委員長 農業関係。

じゃ、男性の方。

○サトウ 私は、亀下に住んで農業に従事しているサトウトシヒコです。

昨年の3月11日の事故以来、本当に農業をだめにしてしまうこの原発にさよならをしなければならないと、そのようにずっと考えてきたわけであります、そういう点からいえば、東海第二原発は再稼働をしないで、直ちに廃炉にすべきであると、そのように考えるものであります。

その理由の第1は、第二原発は、老朽化の症状が最近の定検の長引く原因ともなり、またシラウドサポートのひび割れ40カ所にあらわれております。まさに、また一方、第二原発の地下周辺で複数の活断層の運動する可能性も指摘されるなど、いつ大事故になるかわか

りません。幾ら日本原電の側、そこに働く方々が大丈夫だと、安全だと幾ら言いましても、とても信用する気にはなれません。それを言えば言うほど、不安になるのが心情です。

理由の第2は、原子力発電は未完成で、危険な技術だからやめるべきだと、そういうことです。どんな原子炉も、発電の過程で大量の死の灰を生み出します。この死の灰をどんな事態が起こっても原子炉内に完全に閉じ込める技術はいまだにありません。一たんこの原子炉で暴走が起こったらコントロールができない。それが人類社会を脅かす大変深刻な状態になることを、私どもはこのたび体験をしました。福島原発は、五重の防護壁があると自慢していましたが、結果は悲惨な状況がいまだに続いております。原発事故で放射性物質が大量に排出・放出されると、被害は限りなく広がり続けます。それを抑える手段もありません。

さらに、大きな弱点は、先ほどからも出ています使用済み燃料の後始末ができていません。東海第二原発も……

○豊島寛一 委員長 まとめに入ってください。

○サトウ わかりました。

使用済み燃料プールに84%がたまっています。いまや核燃料サイクル計画は完全に破綻しております。自分がつくり出す核廃棄物の後始末もできない原発を再稼働しようとする態度は絶対に許せません。

以上です。

○豊島寛一 委員長 ありがとうございました。

じゃ、眼鏡の方。すみません、順番です。

○イシブネ 私、南台在住のイシブネと言います。

東海第二原発の再稼働をやめ、廃炉の立場での発言をします。

原発は、一たび事故を引き起こせば、福島第一原発の事故を見てもわかるように、取り返しがつかない最悪な事態になるということです。原発の事故は、いまだ終息していません。終息どころかその被害は拡大し、多くの被災者は、先の見えない苦しみのもとに置かれています。福島県では、今も県内外の被災者は16万人に上り、避難先で命を落とす人も少なくないといいます。日本原電は、当該第二原発ももう少し波が高かったら、すべての電源が喪失し、福島第一原発の事態になった可能性は否定できないと述べています。半径30キロ圏内に約100万人の人が住んでいて、福島のような事故が起きればどのようになるかは推して知るべきでしょう。

原発稼働で大変な問題は、使用済み核燃料です。これは、原発を運転したら必ず大量に出

てくるもので、いわゆる死の灰の塊なんです。原発では、ウランでつくった燃料を、三、四年燃やすと、それ以上は燃やさないで取り出すというんです。でも、一たん燃やした後の核燃料というのは、大量の放射能を絶えず出し続ける大変危険な存在だといいます。100万キロワットの原子力発電所だと、毎日3キログラムのウランを消費して、3キログラム死の灰を残します。それが使用済み核燃料にたまるんです。東海第二原発が稼働し、1年間動いたら、先ほどもどなたか言っていましたが、広島型の原爆1,000発分を優に超す死の灰がたまります。ところが、死の灰の塊である使用済み核燃料を始末するシステムをいまだに人間は開発できないでいるのです。だから、現在、原発敷地内の貯蔵プールに貯蔵しているのが現状です。

そして、いざというとき、そのプールの一つ一つが核事故の発火点になるんです。原発稼働を続ける限り、処理する方法のない核のごみがあえ続けます。これ以上こんな危険な飛散をふやし続け、将来の世代に押しつけ続ける行為は絶対に許されません。原発が再稼働しなければ電力が足りなくなり、生活が成り立たなくなるという人がいますが、そんなことはないということを猛暑だったこの夏で実証されたのではないでしょうか。大飯原発の2基のみの稼働でできた。あと48基の原発が停止だったにもかかわらず、電力にはまだ余力があったんです。

東海第二原発は34年が経過し、老朽化しています。再稼働してもあと数年です。今こそ原発の未練を原子力発祥の地である東海村からきっぱり断ち切って、村を挙げて再生可能エネルギーの普及のためにあらゆる手立てを尽くすべきです。

原発の廃炉作業は、今後20年以上かかると言われています。仕事や雇用も生まれてきます。それにとどまらず、立地自治体の地域経済再生は国の責任です。石炭から石油へのエネルギー革命を……。

○豊島寛一 委員長 まとめてください。

○イシブネ はい。国策で進めたときのようにさせるべきです。

住民が夢と希望を持てるようにする必要があります。それは可能だと思うんです。稼働しない、そして廃炉に、そのことを願って、私の発言を終わります。

○豊島寛一 委員長 ありがとうございました。

それでは、まだご意見いただいていない方が建設関係、運輸関係、それと商業関係の方ですが、先ほど女性の方、先に意見お願いします。心の準備のほうをひとつお願いしたいと思います。

ただいまよりの人は運輸関係、そして建設関係、商業関係の方、ひとつお願いしたいと思います。

それと、教育関係の方の声がまだ聞いていないかなとも思いますので、ひとつ幅広くご意見を伺えればと思いますので、よろしくお願ひしたいと思います。

それでは、4番目の方の女性の方。

○オオカワ 私は、オオカワといいます。中丸地区の主婦です。

私は、東海第二原発はやはり再稼働せず、廃炉にすべきだと思います。

昨年の東日本大震災での福島原発事故は、完全に安全神話が崩壊しました。だれもが認めること、そして認めざるを得ないことだと思います。とうとい命が奪われ、家族はばらばらに、そして水、空気、土、海、山、人間も放射能汚染されました。いまだにそれも続いております。そして、不安だらけの生活をしています。私も、私たちも同じだと思います。

買い物をしていても、手にとるもの、見るもの、果たして大丈夫だろうか、食べても本当に大丈夫なのかな、若い息子とか若い息子夫婦に食べさせないほうがいいのか、本当に悩みます。

それから、私は、ちょっと機会がありまして福島の避難している飯館村に行く機会がありましたけれども、本当にだれも住んでいない。本当に家がいっぱいあるのに畑も田にもだれも入っ子一人いない、そういう風景を見てきました。本当に私は、農家の娘なんですけれども、親はやはり草1本でも2本でもあればもう抜きたいって、そういう気持ちがいっぱいなのに、本当に草取りができない、田畠があるのに作物がとれない。これは本当に農家にとって死に相当するものだと思います。本当に涙が出る思いで見てきました。

その中で、自分たちで見回りをしているんですね。そういう汚染にもかかわらず共同で何人かでグループ行動をやっているんですけども、汚染が大事なのか本当にうちが大事なのがって、そういう身のうちを見回りしている方が本当にいました。

それから、チェルノブイリや原発事故は、今でも子供たちへの被曝は続いている。本当にいかに深刻か、恐ろしくなります。今、若い人、未来を担う子供たち、それから妊娠している胎児の将来がとても私は不安です。どんなことがあっても、命が最優先されなければなりません。1度、福島原発事故のような、いやそれ以上の事故が起きたらどうします。だれが人々を守るんでしょうか。保障するんでしょうか。東海第二原発は老朽化しています。安全の処理できない、先行きの持てない東海第二原発は、絶対に廃炉にしてください。

よろしくお願ひします。

○豊島寛一 委員長 ありがとうございます。

次の方。

じゃ、後ろの方。どうぞお立ちください。男性の方です。

○フナバシ 私は、内宿から参りましたフナバシと申します。無職でございます。

本日は、東海第二原発に関する意見聴取会ということでございますが、これは聞くほうに
とってもまた陳述する者にとっても、大変重たい問題だろうと思います。

まずは、村政発展に日々ご尽力いただいております村会議員の皆様方に、深く敬意を表
たいと思います。

さて、限られた短い時間でございますので、私の考え、思いを率直に述べさせていただき
ます。

私は、1966年、昭和41年、東海村に移住してまいりました。爾来46年になります。この
間、村の移り変わり、発展の様子をしっかりと見てきたつもりであります。村の入り口に、
「ようこそ原子力のまち東海村へ」という案内板のとおり、原子力と共に存共栄を図り、その
名のとおり、村の発展は目をみはるものがありました。村民として大変うれしく誇りに思つ
てまいりました。

そうした中にあって、1999年9月30日のJCOの事故による臨界事故は、日本じゅうに
大きな衝撃を与え、人命まで奪い、それまで安全をうたっていた原子力の神話は完全に地に
落ちたものと思われます。これによって、原子力に対する私の考えも一変させられました。
また、この事故によって私自身、大変な苦労をなめさせられました。

そして、昨年の福島の事故、全く恐怖のきわみでございます。広範囲にわたって人々の日
常生活が根こそぎ奪われ、見知らぬ土地に逃げ出さざるを得ない状況は、まことに耐えがた
いものと思っております。

この事故によって、原発依存にとどめを刺したかに思われましたが、それには至らずまこと
に残念に思っております。

最後に、私の東海第二原発に対する考え方でございますが、再稼働には反対いたします。廃
炉を求めます。どうか賢明なるご判断をお願いいたします。

以上です。

○豊島寛一 委員長 ありがとうございました。

もうお一方だけで、休憩に入らせていただきたいと思います。

一番先、オカザキさん、裏。

○ホリグチ ありがとうございます。

私は、ひたちなかに住んでおります原子力で働いていますホリグチと申します。

8年前、子供たちのために新しいエネルギーとしてこれをしっかり研究したいというふうに思いました、埼玉のほうからこちらのほうに移り住んできました。

私が言いたいことは、この議論、難しいので、もっと真剣に、早急に結論を出さず、もっと慎重に議論していただきたいというものです。

理由は3つあります。

まず、1点目ですけれども、まず今我々がやらなければいけないこと、それは福島第一原発で起こったこと、これの原因をしっかり見きわめて、反省をして、なぜこれが起きたかということを、しっかりと子供たちや世界に発信するべきであると思います。現状、まだそれは不完全だと思いますので、まずそれをしっかりやるべきだというふうに思っております。

その上で、その議論が終わってから再稼働の議論はやるべきであるというふうに思っているんですけども、何も東海第二原発、こちらのほうの再稼働をしゃにむに議論しなくてもいいと思っているのは、1つは、東京地方に電気を送っている原発としまして、新潟にあります柏崎刈羽原発があります。こちらの最大出力は821万キロワットと、東海第二の8倍も大きいものあります。この原発も地震による被害を受けましたが、津波による影響はありませんでした。ということで、東海第二も明らかに安全性は高いと思っております。

ですので、まずはこちらの柏崎刈羽の再稼働を議論して、もしそれで再稼働したのであれば、その後に東海第二について、その安全性について再稼働について議論すべきであるのではないかというふうに思っております。

すみません、3つ目になりますけれども、現在この段階で廃炉を選択することは、私は次の世代に対して非常に重いツケを残すというふうに思っています。なぜならば、我々は明らかに3・11まで原子力発電と便益、ベネフィットを受けておりました。ですが、この段階で廃炉を選択することは、子供たちにはそのベネフィットは分け渡さず、リスクだけ残すということになると思うんですね。それは、なかなか責任あることだと思えません。責任のある大人としては、きちんとリスクとベネフィット、そのバランスをとって後年に残していきたいというふうに思っております。

あとは、再生可能エネルギーの話がありますけれども、太陽光や風力発電、こちらはすべて工業製品です。特に太陽光は、それをつくるために非常に大きな電力を使います。その電力は一体どこからつくり出すんでしょうか。そのためにも原子力を使うということは難しい

ところですので、拙速な結論を出さずに継続した議論、それを求めていきたいと思います。
以上です。

○豊島寛一 委員長 ありがとうございました。

皆さん、貴重なご意見をいただきありがとうございます。
それでは休憩を、3時ちょうどから再開したいと思います。休憩をとらせていただきます。
お疲れさまです。

休憩 午後14時52分

再開 午後15時00分

○豊島寛一 委員長 それでは、戻られたかと思いますので、再開いたします。

それで、先ほど、私のほうから教育関係の方とか運輸、建設、商業ということでとらせていただきました。

それでは、教育関係の方、ひとつお願いします。名前も。

○アベ 白方中央のアベと申します。教員です。

私は、再稼働に反対です。廃炉にすべきだと考えます。

前回の意見聴取会で、再稼働賛成の人々は、あるいは今日もそうですけれども、福島の現実を見てはいないと感じました。事故を例えれば残念な結果と言います。福島に対する想像力が働けば、残念という不適切な言葉は出てこないはずで、そこが大きな問題だと私は思います。

再稼働したい人々は、原発事故のパラダイム、つまり世界の枠組みが完全に変わったことを受け入れていないようです。村の発展を誇りに思うとか、これまで世話になってきたとか、豊かな暮らしを維持したいとかいうのは、世界の変化に気づいていないから、だから事故以前の発想が出てきてしまうんだと思います。

しかし、私たちはこれまでの価値観を見直す転換期に来ています。原発の問題は、大きく3つ挙げられます。

1つは、コスト論です。

これは、財政とか雇用とか経済の不安。豊かな生活を維持したいという形で、日本の行く末、天下、国家を論じるように展開されます。これがコスト論です。

2つ目は、リスク論です。

これは、安全対策を徹底することが大切だ。安全を確認すれば再稼働してもよい。地震や津波対策を万全にする必要があるといった形で言われます。これがリスク論です。

3つ目が、モラル論です。

これは、人間の道としての倫理の問題です。想像力の問題です。私は、廃炉にすべき根拠をこのモラルの面から3つ挙げます。

1つ目、先ほどから出ていますが、核廃棄物の永久処分が不可能だということ。国中どこにも埋めるところはありませんし、また埋めればいいというものでもありません。このことは、猛毒の核のごみを未来世代に先送りするということです。これを、まだ生まれていないために何も意見を言えない未来の人々に一方的に押しつけることを意味します。危険は何万年も続くのですから、たかだか百数十年の国家やわずか数十年の企業ごときが対応などできるたぐいのものではないのです。自分たちの都合のために、未来の子孫を見捨ててお金を選び取るというのがコスト論者の考え方だと言うことができます。

2つ目、廃炉にすべき根拠の2つ目、末端の労働者の被曝の問題です。

原発がある以上、事故でなくとも末端の労働者は不当に搾取された上、命を縮める高い被曝をさせられます。その命を犠牲にしないと動かせない原発というのは、反倫理の象徴です。そして、私たちはその人の存在を目をつぶって見ないようにしているんじゃないでしょうか。そこには、あからさまな差別意識があります。安全の名のもとに再稼働というのは、この労働者をさらにふやすことを意味します。

3つ目、再稼働は、事故の危険性とその不安を日常的に村民に背負わせることを意味します。危険性に対する管理する鈍さが再稼働を推し進めます。本来、村民を守る立場の村議が、村民に危険を与えるなどというのは、本末転倒です。

ですから、再稼働はしないでいただきたい。

以上。

○豊島寛一 委員長 ありがとうございます。

建設関係の方、いらっしゃいますか。商業関係の方。おりませんですね。女性の方、ひとつ、おりませんでしょうか。

じゃ、女性の方。

○イマイ 南台のイマイといいます。

えつ、この狭い日本に54基もの原子力があったの。事故後に知った初めての事実、私のふ

るさとは福島です。5月に実家に帰ったとき、多くの避難者の声を聞くことができました。あの日、何が起きたのかわからず、知らされず、着のみ着のままで何日も逃避行を繰り返し、やっと落ちついた仮設住宅は四畳半2間だけ。家族はばらばら、家があっても帰れる見通しも立てられず、見知らぬ土地での生活に体調を崩し、亡くなる方も大勢いると聞きました。

福島は農地に恵まれ、果物も豊富で、海や山、湖と、四季を通じて観光客の絶えないところでしたが、今は世界じゅうに放射能の福島として知られるようになり、まことに悲しい限りです。

原発は安くて安全の神話は確実に崩れました。日本のどんなに偉い科学者であっても、予期することができなかつたのですから、結局は事故が起きたときのことは何も考えずに、たとえ事故が起きても何とかなると安易に考え、長い間国民をだまし続けてきたのだと思います。もちろん私たちの責任でもあります。これだけの恐ろしい大きな事故が起き、明確な解決策がいまだに示されないままに、再度原子力発電に頼ろうとする人がいるとすれば、日本人としてまことに恥ずかしい限りです。

もう一つの問題は、原発が動いている間に出続ける大量の使用済み核燃料です。放射能に汚染された使用済み核燃料は、原子力発電所が動いている間は出続け、これを最終的に処分する方法も場所も決まっていないということです。東海第二原発が設置されたころとは違い、現在では自然エネルギーに転換できる時代です。今回の大惨事を教訓として、国民の命と財産を守るためにも、今こそ全世界に向けてこの東海村から脱原発を発信し、自然エネルギーへの転換を選択すべきです。

以上です。

○豊島寛一 委員長 ありがとうございます。

次の方。

じゃ、とりあえず3人。

○オオカワ 村松に住んでおりますオオカワと言います。

東海原発二号炉は、再稼働しないで廃炉にすべきです。

安全対策を施すから再稼働しても大丈夫だという意見が大分聞かれていますが、今まで絶対安全と言って、私たちの不安や警告に耳をかさず、抜本的な安全対策を怠ってきた人たちの言葉は、にわかには信じがたい。何より、原発を推進してきた人たちの中から、今までのやり方を真摯に反省する言葉が一つとして聞こえません。であれば、やはりきちんと反省をしていないのだなと受けとめざるを得ないです。きちんとした総括なしに再出発をす

れば、再び過ちを繰り返す公算が大きい。これまでと同様、命よりも経済効果を最優先させて、適当なところでお茶を濁すのではないか。絶対安全と言っている限り、安全なのだから対策は必要ないと自縛自縛にかかって、そもそもがとても危険なものを動かしているんだと、そういう感覚がこれまで麻痺してきてしまっていたのだと思います。

最後に強調したいのは、原発を廃炉にすることによって生じるあれこれの問題も、原発事故の巨大な危険と比べることができないということだと思います。何よりも命が大事です。経済をどうするんだという人がいますが、経済はその大切な命を支えるための手段にすぎない。経済を人の人命の上に置くことは絶対に許されないと私は思います。

以上です。

○豊島寛一 委員長 ありがとうございます。

○スズキ 東海第二発電所で仕事をしているスズキと申します。

発電所の再稼働について、賛成の立場で意見を述べさせていただきます。

福島第一発電所の事故については、同じ原子力に従事する者として、非常に残念に思っており、一日も早い復興を望んでおります。

今回の事故は、余りの大きさに慎重かつ否定的になるのは仕方がないと思っております。しかし、エネルギー資源を世界に頼っていることを踏まえると、これからの中エネルギー、環境、経済の将来を見据えた議論を慎重に行った上で、判断をすべきではないでしょうか。東海第二発電所は、我々働く者としては、安全な職場と思っております。

なぜかと申しますと、昨年3月11日の大震災における津波の備えを行っていたこと、またそれ以上の地震、津波が押し寄せてきたときの安全対策が施されているからです。どうか東海第二発電所の廃炉を簡単に決めないでください。そして、東海村、地元経済、雇用の灯を消さないでください。

以上です。

○豊島寛一 委員長 ありがとうございます。

それでは。

○マツノ 発言の機会をいただきまして、ありがとうございます。村松のマツノです。原子力関係です。

東海第二原子力発電所につきましては、福島第一原子力発電所の事故を踏まえた必要な対策が行われ、専門家の確認が行われれば、運転すべきと思います。既にもう報告されている国会事故調査委員会によれば、福島第一原子力発電所の直接的な原因は、地震に誘発され

た津波等となっています。東海第二原子力発電所では、福島の事故を踏まえた対策の強化の取り組みとして、安全上重要な設備への浸水防止対策、電源喪失を起こさないための電源の多重化、多様化、原子炉や使用済み燃料プールの注水、冷却手段の多様化などの対策が行われています。

また、これらの安全対策を確実に実施するため、体制面や運用面の強化が図られており、原電のホームページやパンフレットで情報が発信されています。

この直接的原因に対する対策が確実に行われ、科学的な技術的な専門家による安全確認がなされれば、反対する理由は見つかりません。電気、電力は、私たちの生活にはなくてはならないものです。原子力の賛否については、電力の供給安定性、環境面における安全性、経済性、将来の世代に多様な選択肢を残すという点の議論が必要だと思います。

私は、何でもかんでも原子力と言うつもりはありません。原子力は、運転していても停止していても、廃炉、原子力施設がなくなるまで安全確保が必要だと思います。福島の事故以降、2030年代に原発ゼロという目標で進むことになったのですから、原子力にかわる自然エネルギー、代替エネルギーの実用化に向けて全力で取り組むべきだと思います。しかし、この切りかわるまでの間は、私たちの税金も投資されている私たちの資産でもあり、財産でもある原子力を活用すべきと思います。

将来において、代替エネルギーの開発と利用が進み、一定の電源構成上の比率を占めるようなインフラの整備が整った状態であれば、老朽化が進行した原子力施設について廃止もあり得ると思いますが、現時点において原子力発電所の運転に反対、廃炉にすべきという意見には同調できません。原子力の安全対策、電力の安定供給、私たちの生活と代替エネルギーのない現状を踏まえ、冷静な議論を願うばかりです。

以上でございます。

○豊島寛一 委員長 ありがとうございます。

○アカシ 村松在住のアカシと申します。原子力関係者です。

私は、福島の事故後就職が決まりまして、東海村にやってきました。私は、東海第二の廃炉、再稼働について、現時点で判断することは東海村にとってよくないと思います。会場の皆さんにおっしゃるとおり、東海村のふるさとや雇用はどちらも大切です。どちらか一方をもちろん選べるものではありません。どちらも大切だからこそ、このような場が設けられ、皆さんの本音が述べられていることだと思います。

もちろんどちらも大切なんですが、お互いが納得のいかない形でどちらか一方を選択して

しまった場合、東海村で働く人たちと暮らしている人たちがこれから仲よく暮らしていけるのでしょうか。このタイミングでどちらか一方を選択することが、本当に東海村にとってよいことなんでしょうか。

今、国は新しい基準で原発の廃炉、再稼働について話を進めています。原発の安全性については、原子力規制委員会が判断して原発の存続を決定します。そして、新しい基準で安全性が確認された原発だけが再稼働の判断対象となり、政府の責任で再稼働について判断されることとなります。当然、これは東海第二にも当てはまることがあります。

国の決定を待たずして、今回提出された4件の請願、廃炉と安全性についてどちらか一方を可決することは、東海村村民の対立を深めてしまうことだけではなくて、東海村は、国が決めようとしている基準をないがしろにする村であるということを日本全国に示すことになると私は思います。それが、本当に東海村にとってよいことであるとはとても思えません。そうなってしまうのであれば、今回の請願についてはすべて否決することもありだと、私は考えます。

最後に、私たちみたいな若者にとっては、自分たちの未来です。新しい国の安全規制や再生可能エネルギーの実用化などについては、自分たちでしっかりと見詰めて、しっかりと考えながら考えていきたいです。

なので、どうか拙速に今決めずに、僕たち若手にも選択させてください。

以上です。ありがとうございました。

○豊島寛一 委員長 ありがとうございます。

男性が続いています。女性の方いらっしゃいませんかね。

じゃ、一番赤い。

○サトウ 東海村竹瓦在住のサトウカヨコと申します。自営業をしております。

私は、原発に断固として反対いたします。

ある日、見知らぬ人が突然やってきて、勝つか負けるかわからない危ないギャンブルに負けたときの代償として、あなたの家族、土地、家、仕事、未来とあなたの大切なものすべてをかけろと言われたら、そのときあなたならどうするでしょうか。もちろん全力で抵抗するでしょう。私が原発に反対する理由の一つはそこにあるのです。

今、東海第二原発を再稼働するなどという愚行におよび、事故が起こってしまったときの代償として、承諾した覚えのない私たちの大切なすべてがかけられてしまうからです。全力で反対することは、至極当然な行為ではないでしょうか。人知の及ばないものがあるという

ことを人間は決して忘れてはなりません。去年の大地震で、もう既にサイは投げられたのです。

日本原電さんは、事故は起こらないかもしないにかけているのでしょうか。事故は起こるかもしれないには目をそむけて。だから、あのようなまだ安全神話から抜け切れない折り込みチラシを配布するのでしょうか。しかし、東電人災事件の被告人として訴えられている勝俣氏が社外取締役に名を連ねている時点で、だれも信用などしないでしょう。百歩譲って再稼働しようとするのであれば、まずは私の家に来てください。補償の額を提示してみてください。本当は、全国と言いたいのですが、まずは村内全世帯回ってみてください。補償などできっこないことは明らかです。そうすれば、再稼働などと軽々しくも口にすることなどできるはずもありません。

私たちは、福島という悲しい前例から多くを学びました。電気をつければ、確かに周りは明るくなりますが、その電気は多くの被曝を伴う労働の上に成り立つものだということを、そしていまだにふるさとに帰れない多くの人の存在を思うと、途端に気持ちは暗くなります。もうどこかのだれかの犠牲の上に成り立つ発電方法は嫌です。

福島から茨城に避難してきた方の言葉です。福島は、ある日突然爆発してしまった。でも、東海村はまだ爆発していない。考える時間がある。とめる時間がある。どうかこの言葉をかみしめてください。

村議員の皆様、村民のために常日ごろご尽力くださいまして、まことにありがとうございます。さて、どうすることが村民を守ることにつながるのか、もう明白であります。この美しい緑豊かな東海村が、片仮名で「トウカイムラ」と表記されてしまう前に、一刻も早い決断を願います。

ありがとうございました。

○豊島寛一 委員長 ありがとうございました。

次の方。じゃ、一番前の方、次に眼鏡の方ですね、2番目。3番目に一番最後尾の方。

○ナンコウ 常陸大宮市在住の東海村外勤務の原子力関係に従事しています。

簡単ではありますが、個人として意見を述べさせていただきます。ナンコウと申します。

東日本大震災から1年半が過ぎました。地震発生と同時に、電気、水等のインフラが停止となりました。特に電気、水が復旧したときには、電気、水のありがたさや、電気、水をなくしては生活が成り立たないことを実感された方が多いかと思います。

東海第二発電所におかれましては、地震後の緊急安全対策として、最新の知見に照らして、

浸水防止対策、電源確保等の対策が図られているとお伺いしております。

国のエネルギー政策の全体像が示されておりませんが、エネルギーの基本は、供給の安定性の確保、安全性、経済性だと思います。このことを考えると、原子力発電はエネルギー供給の一つであると考えます。

震災以降、太陽光、風力、地熱発電が話題となっておりますが、技術開発途中で、まだ安定したエネルギーとなっていないのが現状かと思います。これからは、太陽光、風力等の自然エネルギーからの供給を踏まえつつ、社会経済、生活環境の安定のためにも、原子力発電は必要と考えます。安全確保を最優先として、安全確認後は、東海第二発電所を再稼働すると判断するべきではないでしょうか。

私は、福島での支援業務で飯館村等の空間線量等の測定をしたときがございます。その際、学校の先生方等から、グラウンドの測定を行っていたときに、先生から、毎日どうもお疲れさまですと言われたときがございました。このときは、二度とこのような事故を起こしてはならないというふうに肝に銘じました。

また、東海村内で原子力関係の業務に携わる一人として、今後も現場で働く一作業員として安全作業に努めてまいりたいと思っております。

以上です。

○豊島寛一 委員長 ありがとうございます。

○サカモト 東海村の照沼に在住していますサカモトと申します。また、東海村で原子力の技術開発に携わっております。

リスクというのは、一体どういうものでしょうかということで、我々の生活は、ふだんからリスクにあふれているものだと思います。車に乗ると交通事故に遭うかもしれない。あとは飛行機に乗ると墜落するかもしれないと。食べ物を食べると食中毒になるかもしれないといったようなさまざまなものがあると思うんですけども、今回の福島第一原発の事故は、安全だと考え続けてこれまで潜在的なリスクとして取り扱われてこなかった津波というリスクが顕在化したものだというふうに思います。

新幹線とか飛行機が日々安全に運行されているのは、そういったリスクをあらかじめ顕在化させて、その対策を行うという努力をしているからです。原発は、これまで津波というリスクの対策を怠ってきたということは言うまでもありません。今回顕在化した津波リスクに対しても、早期に解決されなくてはなりませんし、その他のリスクについても東海村でまさに考えていかなくてはならないというふうに思います。

さきに提出されました請願書の中では、命を第1に考えるべき、あるいは未来を担う子供たちに安心と希望を保障するといったことが言われています。まさにこれらを確実に、そして着実に実行するには、エネルギーの安定的な確保が大前提になると思います。

この中で、太陽光発電だとか風力発電を代用することはすばらしいことだと思いますが、その稼働率は原発の60%から80%に対して、10%か20%程度であるというリスクについてもきちんと認識しておかなくてはならないというふうに思います。

不安定な電力だけをもとにしても、未来を担う子供たちには安心を与えられませんし、それは決して命を第一に考えているとは言えません。東海村としては、原発を再稼働しない場合の村への影響、あと特に予算の減少、失業率の増加、そういうことをきちんと評価して、ミスリードしないように取り組んでいかなくてはならないというふうに思っています。

一技術者として申し上げますが、原子力立地自治体の筆頭であり、なおかつ多くの原子力技術者が集まる東海村だからこそ、安心、そして安全、地域と共生できる安全な原子力を実現できるというふうに確信しております。東海村としては、こういった方向で世界をリードし、さらなる発展を目指していくべきではないでしょうか。

以上です。

○豊島寛一 委員長 ありがとうございます。

じゃ、一番後ろの方。

○コムロ 私は、駅西に住んでいますコムロと申します。

廃炉にすべきということで、意見を述べさせていただきます。

絶対に安全と言われてきた福島原発で事故が起きました。地震や津波の危険性が指摘されていて、それ無視して起きたまさに人災の事故ということが、事故が起きてからわかりました。

原発は、営利を追求する会社である以上、予想される事故を最小限に見積もる宿命があると思います。日本では、それを規制する委員会も電力会社の影響力が及んでいて、完全に独立した委員会になっていないという話も聞きます。

そのような状況の中で、原発のさらなる安全性の向上といつても、安全は保障されるとは思いません。人口の多い東海原発で事故が起きれば、全村民が避難しなければなりません。また、近隣の住民まで含めると膨大な人数で、この人数が避難するというのは不可能に近いというふうに聞いております。

加えて、東海原発は、老朽化が進んでいる。確かに原発に経済を依存している企業、働い

ている人がいるとは思いますが、短絡的な目先の利益、仕事、繁栄しか目がいかないのは、子供たちや村民の将来のことを考えてもそれは誤りです。東海原発は、無条件に廃炉にすべきだと考えます。

○豊島寛一 委員長 ありがとうございます。

次の方、じゃ、ヨシダさん。

○ヨシダ 大字舟石川のヨシダカツノリです。年金生活者です。

東海第二の廃炉、そして原発をゼロにしたらどうなるか。

まず、経済が低迷し、給料が下がり、失業がふえ、殺伐とした世の中になります。その中で、中流以上の方々の暮らしは、大した影響は受けないでしょう。しかしながら、中流以下の人々は、生活が非常に厳しくなり、犯罪が増加します。その結果、皆さんあるいは皆さんの家族が被害者となる可能性が非常に高くなることです。また、経済の低迷は、安定した職場は少なくなり、失業者、非正規雇用者の増加となり、皆さんの子供や農業収入は少なくなります。その結果、年金システムが破綻することになります。

次に、東海村はどうなるか。原発の廃止は原子力に未来がなくなることであり、原子力研究の大部分は不必要となることです。そして、それ以前での政府の見識が高ければ、原子力に未来がないなら、その研究に資金をつぎ込む必要がないと判断することは目に見えております。まして、東海村は、原子力とともに生きる気がないなら、研究員が削減されるのは当然のこととなります。そうなれば、東海村の海岸の大部分は、Jパーク関連の業務と、これまでたまつた廃棄物管理だけの仕事になります。その結果、ふるさと東海村は残りますが、そこからは多数の人が出ていくことになります。

最後ですが、一番大事なのが、福島の復興、福島の復興です。私の出身も福島の中通りなので、注意深く見守っております。そのためには、資金です。昨日、日本年金機構から、扶養親族等の申告要請がきました。その中に、復興特別所得税の説明があり、所得税率が2.1%増加することを改めて認識しました。このような負担を少しでも軽減するために、全国の原発ができるだけ早く再起動して、そこで稼いだ資金を福島の復興が完了まで、注ぎ込むというような政策が必要と考えます。

最後になりますが、原発廃止のためのあら探しをするのではなく、どうしたら安全に再稼働できるかを村議会の皆さんに考えていただきたいと思います。

以上です。

○豊島寛一 委員長 はい、次どうぞ。

○セキグチ まず初めに、諸先輩方を前に発言させていただくことは、もう大変恐縮であります
が、せつかくの機会ですので、意見させていただきます。

私は、東二で働き7年目になるセキグチと申します。住まいは那珂市です。

今回は、東二の安全等、あとリスクについて自分の考えを述べさせていただきます。

日本は、地震大国であることは、皆さんご承知だと思います。近年では、阪神・淡路大震
災や中越沖地震、あとは竜巻や台風とかそういった天災を我々は受けながらも、日本に住み
続けております。それはやっぱり日本が好きということだと思うんですね。それは私も同じ
です。

こんなに地震があるにもかかわらず日本に住み続けるのは何でしょうか。それはやっぱり
リスクの問題だと私は考えます。我々は、常にリスクとの闘いをしています。先ほど、リス
クについて意見された方がいると思うんですけれども、日常の生活で命にかかわるようなリ
スクの選択というのは実は余りなくて、さほど気にしませんが、リスクの選択を必ず日々し
ております。自動車に乗ること、飛行機に乗ること、あの仕事がしたい、私は結婚している
んですけども、奥さんを選ぶときもリスクを考えて結婚しました。また、東海村に引っ越
される方、今結構東海村走っていると、新しい家を建てている方が多分いらっしゃると思
うんですけども、そういうことを全部含めてリスクを考えているのかなと。そのリスクと
いうのは、自動車や飛行機なんかは例えば時間と燃料代、あとは交通事故の確率とかあと仕
事は労働条件、賃金といったようなことがあるのではないかでしょうか。

今回の議題にありますように、東海第二に関する意見聴取会ということで、東二について
のみですが、同様にリスクについて考えてみました。

東二再稼働に反対する方のご意見としましては、まず事故が起きたときの甚大な被害、こ
れが一番だと思います。これは私もごもっともな意見だと考えております。一方、東二の再
稼働に賛成する方のご意見としては、安定した電気の供給、あとは個人的にも雇用とかそ
ういったことも出てくるのかと思います。この東二の再稼働のリスクは、最悪命にかかわるこ
となので、とても重要なことなんですけれども、見返り、村の財政とかそういったところも
相当でかいと思います。まさに刃の剣という感じだと思っています。

事故というのは、地震、竜巻、隕石、テロ攻撃等、外部因子によるものが想定されると思
いますが、これらが起きませんようになんて祈っていても仕方ありませんので、我々はこ
れらによる被害を十分に推察できるよう努力をしてまいります。つまり、リスクを小さくし
ています。皆さん、そういう絶対的な安全が確保できれば、再稼働しても構わないんでしょ

うか。もうだまされないですよね。絶対安全なんて無理ですから、再稼働もなし、即廃炉という考えです。

そもそも安全という言葉ですが、安全というのは危険がない状態ではありません。危険が享受できる程度に小さい状態のことを言います。もう一度言いますが、危険が享受できる程度の小さい状態のことなんです。だって、危険はすでにありますから。我々は、危険が十分に小さいとき、それを安全と呼んでいるだけなんです。

最後になりますが、賛成、反対の両極端な議論ではなくて、東二の再稼働のリスク、唯一の際の安全についてみんなでそういう理解、時には妥協も必要かもしれません、ほかの原子力自治体に恥じることのない高尚な議論のできる東海村がその自治体であることを望みます。

ご清聴ありがとうございました。

○豊島寛一 委員長 ありがとうございます。

それじゃ、前の方。

○オオウチ 白方中央のオオウチです。

再稼働について、先ほど来原発の方々から、津波対策、耐震、予備電源の問題等いろいろありました。パンフレットも出されましたし、私も現場を見させてもらいましたし、安全保安庁に出しているストレステストの結果の報告も見ております。

それから見ますと、稼働するのに十分に検証されなければなりませんけれども、安全だとは思います。思いますけれども、原子力規制委員会から出されている避難区域30キロというのが重くのしかかってきます。この30キロのところといいますと、鹿島だの大子だのそれから鉢田、小美玉といった14市町村が含まれます。そういうところが安全であるとないと何かわらず、避難区域の設定だとか防災対策の指針も出さなきやいけないことになっております。それで、これが出て初めて稼働ということになります。安全であっても、それらに携わる人というのは非常に多くて、それと93万の人々というのは、稼働することによって不安が増していくということになります。だから、稼働すれば、日々そういうことに携わるリスクが非常に大きくなるんじゃないかということで、私としてはやっぱりやむなく廃炉にすべきかなというふうに思っております。

それと、再稼働した場合に、ことしの11月で34年になりますね。そうすると、来年からとしても、40年には6年しかありません。それで、定期点検を考えると、せいぜい4年くらいしか稼働しないわけです。それだったら、やっぱり廃炉にすべきじゃないかなというふう

に思っています。

以上です。

○豊島寛一 委員長 ありがとうございます。

はい、どうぞ。男性の方。

○チノネ 私、真崎に住んでいるチノネと申します。私は、原電のO.Bです。ずっと放射線管理をやってきました。

今話を聞いていると、何か今回の放射能で命を落としたりとか、そういう話がありましたので、ちょっと私は再稼働の賛成という立場で3点ばかり説明させていただきたいと思います。

その前にちょっと放射能の話が出ましたので、ちょっと補足させていただきます。

今回の事故で放出放射能のレベルで、人の命が亡くなるようなことはありません。それから、今後がんの発生ということについても日常生活のところで起こるがんの発生率を上回る、増加するようなことはありません。これだけは言っておきます。

3点ですけれども、1点は、まず再稼働の条件として、先ほどから言われているように、地震、それから津波ですね。津波対策については防潮堤なんかの設置をすると。それから問題は電源ですけれども、電源については電源対策をして、要するに最終的には冷却する水を補充するものをきちっとする。これは対策した上で再稼働をしていくように私は要望したいと思います。

あとは、2点目は、東海村の財政ですね、皆さん毎日いろいろそれぞれ恩恵を受けていると思うんですけども、東海村の財政指数は多分1.6ぐらいですね。全国の市町村1,800ぐらいあるうちの多分2番目だと思うんです。そのくらい豊かなまちなんですね。これによつていろいろなお子さんの医療の無償化とか何かということも受けている。この辺に影響するようなこともあるかと思います。こういう恩恵を少し理解したほうがいいんじゃないかなと。これを捨てることはないというのが2点目です。

3点目は、東海の役割として、どのような役割を担うのかと。多分家族でも、それぞれの役割があるように、東海は日本のエネルギー政策の重要なその供給をしてきたわけです。ですから、今後も、これは日本のエネルギーの供給源としての電力供給をぜひ進めていくべきだと思います。

以上、3点でよろしくお願ひしたいと思います。

○豊島寛一 委員長 ありがとうございました。

じや、前の方。地域名。

○ナイトウ 東海村でサービス業をやっていますナイトウです。

皆さんのいろいろな意見を聞いていると、もうさっきから感心ばかりしているんです。賛成しようが反対しようが、非常に適切な指摘がされていると思っております。

ただ、1つだけ私がここへ来てわかったのは、女性の方全部反対の側、再起動反対なんですね。その1点だけです。あとはもうみんな今まで聞いたことばかりの話が多かったなと思っています。ただ、ここにいる方だけで東海村の意見がわかるのかという疑問も持っています。

そこで、ここにいてもわからぬものを賛成の人と反対の人でわからないです。だから、私は自分の意見をどうのこうのという以前に、まず全員投票をしたら、村の人がやたらすつきりするんじゃないかなと、そう思っています。あとは、それをどう処理するかは、行政も含めて村会議員の方がおられるので、そこで検討されればいいと思うんですけども、基本的に村の意思を表現しようと思ったら、投票をして決めていただきたいと、そういう希望です。

以上です。

○豊島寛一 委員長 ありがとうございます。

眼鏡の方ですね。

○ソネ 白方中央のソネと申します。東海に来まして15年になりました。原子力事業者の方に勤めております。

私の意見ですけれども、東海第二発電所の再稼働にしろ、廃炉にしろ、純粋な技術的専門家による科学的な判断が出された後に決断すべきではないかと思います。現時点では、まだこれがしっかりと十分に検証されていない状態だというふうに考えております。

では、なぜすぐに廃炉にしないのかというところですけれども、やはり原発というものが日本の経済に与える影響が余りにも大きいからだというふうに考えております。もし原発がなくなった場合、再生可能エネルギーを一生懸命やられておりますが、恐らく相当の期間火力発電に頼ることになると思います。こうなりますと、中東への依存度が高まってまいります。日本は非常に大きな経済大国ですので、日本がこういう状況になった場合、石油などの化石燃料の値段が高騰します。恐らく世界的な値段の不安定化が起こるようになってきます。これは、日本の経済にとって大変大きな影響をもたらします。

また、中東の安定化というのも非常に大事になってまいります。午前中のときにご意見

された方もいらっしゃいましたが、非常に危険なところを通ってまいります。現在、米国の方々が毎年たくさんの兵士の方を派兵されていて、これで安定が保たれておりますが、幸か不幸か残念ながらシェールガスが開発されまして、米国の方ではエネルギーの自給率が相当高まってまいりました。こうなってくると、米国があえてあの地域に兵士さんを派兵させて安定させるという理屈がなくなつてまいります。こうなってきたとき、日本というのはひょっとしたら日本の責任で、あの地域を安定させなきやいけなくなつてくるのかもしれません。こうなつてきますと、生活の基盤であるエネルギーの確保というのが脅かされてくるというようなことになってくると思います。

ですから、エネルギーを安定に確保していくためには、すぐに廃炉というふうに考えていくのではなくし、もちろん安全が大事だと思いますので、その判断を待つてからでもいいのではないかというふうに考えます。

これ、日本全体の話ですので、なぜ東海でやらなきやいけないかというところはあると思いますが、原子力発祥の地の東海村ですから、その責任を持って議会としてはそこまで踏み込んだ判断をされてもいいんではないかと思います。

私の意見です。

○豊島寛一 委員長 ありがとうございました。

では、最後の女性の方。

○スズキ 原発廃炉派のほうとして意見を述べさせていただきます。

○豊島寛一 委員長 すみません、お名前を。

○スズキ すみません、村松に住んでおりますスズキと言います。

まずは、放射能の危険性、恐ろしさのほうからですが、晚発性障害がどれだけ恐いものかということは、チェルノブイリの例をとれば、4年後から小児甲状腺がんが急増するということになっております。日本がまだ昨年3月、これからどうなっていくのか必ずないとは言い切れないと思います。

あとは、建物の耐震強度なんですが、津波、津波というふうに安全対策をとっていらっしゃるようですが、地震が原因であった場合はどうなるんでしょうか。内閣府のほうでも、今回の3・11よりも大きい地震が来るということは、正式に発表されております。また地表がずれる、破碎帯と言われる断層が原発の炉心の真下にあるところも、全国にはございます。そんなときに福島のような事故が起きないとは絶対に言えません。

安全対策のほうですが、電力会社が行い、また推進派である委員会がテストをしていては、

正しい対策は無理だと思います。

あと、先ほどシェールガスのお話が出ましたが、ガスコンバインドサイクル、この発電所が今全国にことしの3月の時点で163基ございます。東電でも50基以上建設され、既に稼働中で、今夏のエネルギーも電力ですが、わざわざ火力をとめてまで原発を動かしていたという事実があります。なぜそこまでして原発を動かさなければいけないのでしょうか。

シェールガスですが、今革命が起きておりまして、アメリカ、ロシアの先進国でどんどんガス田が見つかっております。価格の下落が続いておりまして、まだ底打ち感がないとのことです。

日本はアメリカの6倍の高値買いをしております。このあたりは企業としてどのように考えておりましょうか。彼らでも安く手に入るんではないでしょうか。東海の原子炉を廃炉にしていただかなければ——もし地震が、待ってくれないですよね、地震は。また、あの揺れが襲ったときに、私たちはすべてを失うことになるんです。ぜひ廃炉として、全住民を巻き込んでの住民投票をお願いしたいと思います。

以上です。

○豊島寛一 委員長 ありがとうございます。

男性の方。次に後ろの方。

○フジイ 舟石川2区に住んでおりますフジイと申します。

東海第二原発の廃炉の考え方で意見を述べさせていただきたいと思います。

その理由の1つは、東海第二原発が非常に老朽化しているということあります。特に炉心の金属材料につきましては、高放射線下に長期間にわたってさらされると、金属の疲労というものは必ず起こります。目に見えない、表面は見えませんけれども、必ず金属はもろくなります。

この間の福島の原発におきましても、津波が主たる原因というふうに言われていますけれども、専門家の間では、地震によって冷却系配管あるいは原子炉の本体が破壊されたんではないかという見解もあります。非常に難しい問題でありますが、それから、もう一つ雇用の問題があります。これは、もし廃炉の方法を選択するとすると、廃炉技術の開発なんかも非常に大変な年限と努力が必要です。技術開発が必要です。そういう意味で、雇用もあるいは東海村の財政も、その間は長期にわたり問題ないと思います。

それから、もう一つ、この原発をどうするかという問題に関しては、非常に重要な問題です。特に村民の皆さんにお手数をかけておりますけれども、早期に結論を出さなくて、先ほ

ど意見が出ましたけれども、東海村全体の意見をぜひ集約していただきたい。そのために住民投票をやることも検討していただきたいと思います。この問題は、東海村だけの問題じゃなくて、その近辺の問題、周辺の住民の方も非常に心配しております。

したがいまして、早急に結論を出すんじやなくて、先ほどもいろいろ意見が出ておりますけれども、長期にわたって賛成、反対の点から議論を続けていっていただきたいと。その上に立って東海村の将来をどうするか、広く言えば、日本の将来をどうするか、エネルギー問題をどうするか、そういうことを真剣になって考えていただきたいと。方向づけをしていただきたいというふうに思います。

よろしくお願ひします。

○豊島寛一 委員長 ありがとうございました。

それでは、時間が迫ってまいりました。あとお二方がいいですね。

じゃ、白の方。今挙げている方ね。

○ ちょっと先に確認させて。

○豊島寛一 委員長 脇の方ね。

○ よろしいですか。

○豊島寛一 委員長 はい、どうぞ。

○ 私、昨年の12月まで旧原研に勤めていた者で、ひたちなか市に住んでいる者ですから、よろしいでしょうか。ちょっと立場としては、東海第二原発廃炉という立場で。

○豊島寛一 委員長 今、お住まいはどちらですか。

○ ひたちなか市です。

○豊島寛一 委員長 ひたちなか市。ちょっと今のところ、ご遠慮いただきたいと思うんです。今お勤めはされていないですよね。

○ そうですね。

○豊島寛一 委員長 じゃ、ちょっとご遠慮していただいて。

真ん中の方。

○クボゾノ 村松のクボゾノと言います。原電の施設のメンテナンスを請け負う会社に勤めています。

再稼働に賛成の立場から意見を言わせてもらいます。

御存じのとおり、日本は資源の乏しい国で、そのほとんどが輸入に頼っています。石油、石炭、L E G、ウランも同様です。しかも、その埋蔵量には限界があり、石油はあと40年、

天然ガスは60年、ウランは70年で枯渇すると言われています。

これらにかわるエネルギー源を早急に開発、実用化する必要に迫られています。このよう
な中、限りある資源を有効に、できるだけ長く使うためには、原子力発電は必要不可欠である
と考えます。しかも、化石燃料は一度燃やしてしまえばそれまでです。再生可能な燃料は
原子力だけです。核燃料サイクルを確立し、限られた資源を子や孫、その先の子孫までに受
け継ぐことが今できる我々の使命だと思います。

また、地球温暖化の対策も急務です。化石燃料を燃やすことによって、CO₂が大量に発
生し、温室効果が高まり、気温や水温を変化させ、海面上昇、降水量の変化を引き起こすと
考えられています。その結果、洪水やハリケーンなどの激しい異常気象を増加させます。

事実、最近は竜巻の発生が多くなったことや、台風の進路も以前とは違ってきているよう
に見受けられます。CO₂を発生しない原子力発電は、対策の一番手と考えます。

福島の事故は、あってはならないものでしたが、起こった事実は間違ひありません。この
事故を受けて、我々はどうやって再発を防止するかが大切だと思います。津波が来ても、重
要機器が水没しないような水密対策、外部電源が遮断されれば自家発電できる設備の増強等、
現在各発電所でとられている対策を施すことで、今回の福島での事故への再発防止はできる
ものと考えます。二度と事故を起こさない対策を万全にして、一日も早い再稼働を願うもの
です。

最後に、もうじき定年の私は、年金生活が身近なものとなっていました。勤めに行かず、
一日じゅう家にいると、電気代もばかになりません。エアコンやクーラーなどの家電製品は、
電気がなくては動きません。便利になった今の生活を昔の生活には戻せません。化石燃料の
輸入がふえると、電気代の値上がりも必至です。年金生活者には、電気代の負担も大きくな
ります。東二の一日も早い再稼働で、安い、便利な生活が続くことを希望して私の意見とし
ます。

以上です。

○豊島寛一 委員長 ありがとうございます。

じゃ、あとお二人で締め切らせていただきます。大変申しわけございません。

○セキ 東海村村松に住んでおりますセキと申します。

時間が迫つてきましたので、結論とその理由を申し上げたいと思います。

東海第二原子力発電所の再稼働には絶対に反対します。それから、ぜひ原子力発電所を廃
炉にしてください。

これは、先ほどから皆さんからご意見がありましたように、原子力発電所が老朽化しているというのが1点、それから近くに太平洋プレートがあって、危険だと言われております。その2点から、特に反対をいたします。

そして、避難のことですが、皆さんからたくさん意見が出ておりますが、30キロ圏内に100万人以上の人人が住んでいて、どうして避難なんてできるんですか。よく考えてみてください。

そういう理由で第二原発の再稼働に反対、それから廃炉を強く求めます。

それから、一言つけ加えさせてください。

原子の核というのは、人間がコントロールできるものでしょうか。人間でコントロールできないんです。それを安全だとどうして言うことができるんですか。そして、人間は、パーフェクトではありません。不完全です。そういうことを考えたときに、原子力発電が安全だ、心配ないよ、技術も進歩しているよ、そんなことを信じますか。

どうか第二原発の再稼働の反対、廃炉を強く求めます。

ありがとうございました。

○豊島寛一 委員長 ありがとうございました。

じゃ、最後の方になります。大変申しわけございません。あと皆さん方もメモっている方もおられると思いますけれども……

○ウツノミヤ すみません。最後の1人ということでよろしくお願ひします。

○豊島寛一 委員長 ……に入れていただきたいと思いますので、最後にさせていただきますので、よろしくお願ひいたします。

○ウツノミヤ はい、わかりました。

私は、舟石川に住んでおります主婦のウツノミヤと申します。よろしくお願ひします。

私は、東海第二発電所の廃止及び原発ゼロに反対します。女性ですけれども、反対します。

先日、東海第二発電所の見学をする機会がありまして、それで住民の一人として地震、津波対策強化工事、それから電源確保対策ということで、福島第一の事故を踏まえた対策の強化の実施状況を自分の目で確認した、その様子を見ての発言とさせていただきます。

日本は、エネルギー資源の自給率がわずか4%と言われています。ですから、残りは外国からの輸入に頼っているという状態なんですね。石油の多くが中東地域というところを通つての輸入です。ですから、原油は不安定なんです。

それで、水力、火力、最近はやりの自然エネルギーでは、高価格の電気料金となります。

原子力発電所の電気ですけれども、少しの燃料でたくさんの電気がつくれる。そして、燃料の電気の供給にすぐれているという利点がございます。

私は、定年退職ということで、今年金生活なんです。それで、原発ゼロを唱える方たちの多くが、電気料金の値上がりは反対ということを言っていますけれども、それはちょっと難しい問題じゃないかと思うんですね。やはり安全確認された原子力発電所、それを再稼働してもらって、そして安全な電気をみんなで使って、村民が、東海村村民ですね、現在の環境と安定した生活を維持するとともに、東海村の将来が経済的にも安定してさらなる発展をするために、原子力発電所の安全・安心を最優先として、再起動をお願いしたいと思います。

それで、私は東海第二発電所の再稼働と原子力発電を推進いたします。

以上です。ありがとうございました。

○豊島寛一 委員長 どうもありがとうございました。

まだまだご意見があろうかと思いますが……

[「もっと意見があるんだよ。あるかじゃないだろう」と呼ぶ者あり]

○豊島寛一 委員長 お静かにひとつお願いしたいと思います。

それぞれの意見がございました。どうもありがとうございます。

それでは、もう時間となりましたので、私のほうでまとめさせていただきたいと思います。

本日は、東海在住の方々、東海に勤務する方々、多くの職種の方々の他から非常に勇気ある率直なかつ真剣なご意見を40の方に伺いました。私のほうでは40人ですね。私のカウントでは40人だったです。すみません。短時間で十分にご意見が伝えられない方もおられたかと思います。2回にわたり意見聴取会は終わりましたが、ホームページなどで10月31日までご意見を募集しておりますので、ご利用いただければと思います。

本日いただきましたご意見は、ホームページの意見募集とあわせまして個人情報を除いて、意見のみホームページ上で公開をさせていただく予定でございます。

本日の意見聴取会はこれで終了させていただきますが、大変司会進行、ふなれでございましたことに大変おわび申し上げまして、皆様のご協力に深く感謝を申し上げ、この辺で閉会とさせていただきます。

本日は、ご協力、まことにありがとうございました。 (拍手)

閉会 午後15時30分